

教育課程の考え方

1 教育理念

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人を育成します。

2 教育目的

本校における教育は、すべての県民の健康に対して等しく貢献しうる、助産師、看護師、歯科技工士および歯科衛生士を養成することを目的とする。

学生一人ひとりの個性を大切にし、専門職業人としての自覚と豊かな人間性を養い、科学的な思考力と実践力をもって、対象のニーズに応じたセルフケアの確立に支援できる能力の育成をめざす。

3 第二看護学科 教育目標

- (1) 幅広い知識を基に、人間を生活する唯一無二の存在として理解する能力を養う (DP1)
- (2) 看護専門職としての共感的態度を身につけ、対象との人間関係を維持するための能力を養う (DP1)
- (3) 人間の生命、尊厳を尊重し、看護専門職として常によりよい行動をとろうとする態度を養う (DP2)
- (4) 健康上の様々な課題を科学的に思考し、問題解決を図る能力を養う (DP3・DP4)
- (5) 基礎的な看護技術を修得し、対象や状況に応じた看護を科学的根拠に基づいて実践する能力を養う (DP3・DP4)
- (6) 保健・医療・福祉システム全体の中で看護を位置づけ、様々な専門職との連携・協働に必要なコミュニケーションスキルとリーダーシップを発揮するための能力を養う (DP6)
- (7) 地域社会への貢献を視野に入れ、その動向に関心を持ち、自らのキャリア形成をみずえて主体的に学ぶ力を養う (DP5・DP7)

4 ディプロマ・ポリシー

概念	能力	要素
看護行為	DP 1 対象を理解する能力	知識を活用する能力
		人間関係形成能力
	DP 2 倫理的能力	倫理的能力
	DP 3 看護技術力	看護技術力
	DP 4 統合力	看護過程の展開能力
		臨床判断能力
		看護ケアのマネジメント
	看護観	
看護管理能力	DP 5 看護管理能力	看護管理能力
連携・協働する能力	DP 6 連携・協働する能力	連携・協働する能力
看護キャリア形成	DP 7 看護キャリア形成	看護キャリア形成

5 カリキュラム・ポリシー

本校では、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う専門職業人の育成を目指しています。そのために、以下の方針に基づき、教育課程を編成します。

2年間の学習過程において、「看護学」の基礎を体系的に教授する。このことにより、卒業後に、看護専門職として就業し、さらに看護実践を重ねながら自己を成長させるとともに看護学の学びを深めていく基盤をつくる。また、准看護師養成課程での学修をふまえて学生が主体的に学ぶと共に、他者との協働の中で学びの広がりや深まりが感じられるような授業の展開をめざして、演習形式など教員と学生、学生同士が交流する学修方法を重視する。

授業科目は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で構成し、ディプロマ・ポリシーの7つの能力が身につけられるよう科目を設定する。

(1)『対象を理解する能力』は、『知識を活用する能力』と『人間関係形成能力』の要素で構成する。

『知識を活用する能力』は、基礎分野の「日本語表現と論理的思考」「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」「家族社会学」「異文化理解と多様性」を通して、科学的思考の基礎を身につけると共に、看護の対象である人間や生活、そして社会についての理解を深め、看護の対象を幅広く理解するための基礎を学ぶ。専門基礎分野の各科目では、人間の成長・発達と、人体の構造と機能や健康障害について系統立てて理解し、対象の健康や障害の状態に応じて社会資源を活用するために基盤となる知識を学び、さらに、専門分野の各領域の科目の中で、事例を通して、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の基礎的な知識を活用しながら対象理解をする方法を学ぶ。

『人間関係形成能力』は、「人間関係論」「精神看護学概論」「対象理解の技術」を通して人間関係形成における知識、基本的なスキルや姿勢を学び、「基礎看護学実習Ⅰ」で実践をふまえて対象との関係を維持し、意味ある情報を得る方法を学ぶ。

そして、最終的には、各領域実習において、対象との関係性を維持し、意味ある情報を得ながら、専門的な知識を活かして対象の複合的な状態を理解し、それをふまえた看護を実践することを通して『知識を活用する能力』と『対象を理解する能力』を養う。

(2)『倫理的能力』は、倫理の知識をもち、倫理的問題について状況を分析し、対応策を吟味することができることを目指す。基礎分野の「倫理学」において、生命の尊さや人間尊重の基礎を、専門基礎分野の「関係法規」において、憲法をはじめ、各制度や法律がどのような背景から成立しているのかを学び、さらに専門分野の「看護学概論」にて看護における倫理を学ぶ。また、各領域では、成長・発達や健康障害をもつ対象における倫理的な問題について考え、権利擁護のあり方を学ぶ。さらに、各実習において医療現場等において、倫理的な問題が生じている場面を取り上げ、その状況を分析し対策を検討することで、倫理的な問題に気づき、それに立ち向かうことのできる姿勢と思考を身につける。

(3)『看護技術力』は、無駄のない看護技術を多様に組み合わせることを目指す。准看護師教育課程において身につけてきたことを十分に活かせるよう、主体的な学び、グループでの学習を取り入れる。主に、基礎看護学において、「看護技術の基礎・基本」「日常生活援助技術」で日常生活援助技術におけるリスクをふまえ、安全・安楽に実施するための原理・原則を学ぶ。「治療・処置に伴う看護技術」では、診療の補助技術を中心に学ぶ。各領域においては、各領域における特徴的な技術の基本を学ぶ。そして、一つひとつの技術の方法および根拠をふまえて、それらを組み合わせ提供することを事例設定して学び、実習において対象に看護が提供できる基盤とする。

(4)『統合力』は、『看護過程の展開能力』『臨床判断能力』『看護ケアのマネジメント』『看護観』を構成要素とする。

『看護過程の展開能力』は根拠に基づき計画的に看護を実践することを目指す。「看護過程の展開」でアセスメント、計画、実施、評価のプロセスと思考過程の基本を学ぶ。そして、成人看護学、老年看護学、精神看護学の中で事例を展開し、対象を統合的にとらえ、健康レベルや治療方針などに基づいて看護の方向性を見出し、アセスメントから問題解決のための看護実践につなげる方法を学ぶ。また、母性看護学においては、ウェルネスの観点で看護を展開する方法を学ぶ。そして、最終的には、実習において状況が変化する中で根拠に基づき計画的に看護を実践する。

『臨床判断能力』は、対象の状況に合わせた判断をすることを目指し、<気づき><解釈><反応><省察>の臨床判断の学習サイクルにより実践的知識の発展や推論パターンの獲得につなげる。「看護学概論」「日常生活援助技術」の中で臨床判断のプロセスを学び、日常生活援助について、対象の状態や状況への気づきからアセスメントすることの必要性を学ぶ。また、「対象理解の技術」「臨床看護総論」で状況に合わせて、技術を提供すること、その実践を省察し、行為後の省察から転移可能な知識を蓄積するプロセスを身につける。そして、各領域の科目では、技術教育の中で気づきのトレーニングを取り入れ、状況に気づく力を強化しつつ、「小児看護学実習」や「地域・在宅看護論実習」では、実際の看護の場面で臨床判断のプロセスを経験し、最終的に看護の統合と実践の「臨床判断」では、多重課題発生時の行為の優先順位の考え方を学び、「統合実習」へとつなげる。

『看護ケアのマネジメント』は、対象者の生活に合う援助の組み立てを行うこと、および、チームの一員として調整することを目指す。基礎看護学実習の前に1日の行動計画を対象者の生活リズムに合わせて組み立てる方法を学び、各領域実習ではそれを活かしながら実習する。そして、「看護マネジメント」の複数受け持ち患者の業務の組み立て、多重課題への対応の仕方を学び、「統合実習」の複数患者受け持ちしながら対象者の生活に合わせた業務の組み立てにつなげる。また、チームワーク、リーダーシップについて「看護学概論」や「精神看護学概論」でその考え方を学ぶ。

そして、各領域の講義や実習の科目でグループ活動を通してグループ活動における自己の傾向を知り、チームのなかで自己の役割を果たすことを学ぶ。

『看護観』は、自己の看護の経験と看護の概念を結びつけ、看護観を活用して援助を行うことを目指す。入学時の看護観を明文化し、各看護学実習を通して発展させ、最終的に「看護研究」にて卒業時の看護観を明確にする。また、卒業時の看護観の発表に後輩学生が参加することで、伝承という手段を用いて看護観の発展につなげていく。

(5)『看護管理能力』は、県民の健康の維持・増進を担うものとしての使命感をもち、組織の目的を果たすため看護組織の一員として行動することを目指す。「岐阜の理解と地域貢献」では、岐阜への興味・関心をもち、地域住民の一員として地域への貢献について考えることで、県民の健康の維持・増進を担うものとしての使命感の土台を育む。また、「看護マネジメント」で組織の管理的な視点を学び、「統合実習」ではその実際を知り、組織の一員としての行動を意識することにつなげる。

(6)『連携・協働する能力』は、「チーム医療と多職種連携」において、多職種連携において必要なコミュニケーションや自職種の専門性、他職種の専門性の理解、そして、多職種との事例検討を通して専門性を活かすことを体験的に学ぶ。各領域実習では他職種との連携の実際と看護師の役割を考える。すべての看護学実習終了後、「地域・在宅看護活動の創造」にて、住み慣れた地域でその人らしく生活できるようにするための方策を検討し、地域での看護やサービスについて創造していく必要性を学ぶ。

(7)『看護キャリア形成』は、自己の能力と環境をふまえつつ、看護師としてのキャリアを描き、主体的に学習に取り組むことを目指す。入学後、「看護学概論」において、看護師のキャリア開発を知り、キャリアを描きつつ、1年後および2年後のゴールを明確にして、主体的な学習につなげる。「看護マネジメント」では、臨床でのキャリア支援について知り、より具体的に卒業後のキャリアを描き、卒業後に、看護専門職として就業し、さらに看護実践を重ねながら自己を成長させるとともに看護学の学びを深めていくことにつなげる。

6 主要概念の定義

主要概念	内 容
人 間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の中で生活している存在である。 ・ 生をうけてから死をむかえるまで、環境との相互作用の中で絶えず変化し、成長・発達する。 ・ 唯一無二の存在である。
健 康	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主観的・客観的である。 主観的健康とは、個人の価値観や健康観、その人を取り巻く環境の影響を受けて変化する。客観的健康とは、医療の専門職によって把握される、検査等の所見に基づいて判断されるものである。 ・ 個別的、流動的である。 ・ 自己の目標（自己実現）に向かって、その人らしく満足した生活を送ることができる状態である。
環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活する人間を常に取り囲むものである。 ・ 内的環境と外的環境があり、相互に影響し合い変化し続ける。 内的環境とは、対象自身の中にあるもので、それは無意識に外的環境に作用されながら安定性を維持する生理的機能、自己概念や価値観につながる認識、そして精神活動を含む。 外的環境とは気候・大気・水などの物理的環境と生物学的環境からなる自然的環境と、文化的環境と経済的環境からなる社会的環境がある。 ・ 人間の発達や行動、健康に影響を与える条件や状況のすべてである。
看 護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象が健康的で自律的に生活できるように支援すること。 ・ 看護者と対象との関係性において成り立ち、その相互作用のなかで高められる。 ・ 科学的知識と技術に裏付けられた安全で安楽な方法で提供される。 ・ 共感的態度と倫理的配慮のもとに存在する。 ・ 保健・医療・福祉システムの中で提供される。 ・ 社会の変化に応じて看護ニーズに対応する。

令和6年度生 第二看護学科教育課程

分野	科 目	単 位	時 間	1学年		2学年		
				単 位	時 間	単 位	時 間	
基礎分野	科学的思考の 基盤	日本語表現と論理的思考	1	30	1	30		
		情報リテラシー I	1	30	1	30		
		情報リテラシー II	1	30	1	30		
	人間と生活・社会 の理解	倫理学	1	30	1	30		
		家族社会学	1	30	1	30		
		人間関係論	1	15	1	15		
		岐阜の理解と地域貢献	1	15	1	15		
		異文化理解と多様性	1	15			1	15
計	8	195	7	180	1	15		
専門基礎分野	人体の構造と 機能	解剖生理学 I	1	15	1	15		
		解剖生理学 II	1	30	1	30		
		生 化 学	1	30	1	30		
		栄 養 学	1	30	1	30		
		生涯人間発達学	1	30	1	30		
	疾病の成り立ちと 回復の促進	疾病治療学 I	1	30	1	30		
		疾病治療学 II	1	30	1	30		
		薬理学	1	30	1	30		
		微生物学	1	15	1	15		
	健康支援と 社会保障制度	検査	1	15			1	15
		関係法規	1	15			1	15
		公衆衛生学	1	15			1	15
		社会保障	1	15			1	15
		社会福祉	1	15			1	15
	計	14	315	9	240	5	75	
専門分野	基礎 看護学	看護学概論	1	30	1	30		
		看護過程	1	30	1	30		
		看護技術の基礎・基本	1	30	1	30		
		対象理解の技術	1	30	1	30		
		日常生活援助技術	1	30	1	30		
		治療・処置に伴う看護技術	1	30	1	30		
		臨床看護総論	1	30	1	30		
	地域・在宅 看護論	地域生活の理解	1	15	1	15		
		地域生活を支えるしくみ	1	30	1	30		
		療養生活を送る対象の看護	1	30			1	30
		療養生活を支える看護技術	1	30			1	30
		地域・在宅看護活動の創造	1	15			1	15
	成人 看護学	成人看護学概論	1	30	1	30		
		急性期看護	1	30	1	30		
		慢性期看護の理解	1	15	1	15		
		慢性期看護の展開	1	15			1	15
		終末期看護	1	15	1	15		
	老年 看護学	老年看護学概論	1	30	1	30		
		高齢者の生活を支える援助技術	1	30	1	30		
		健康障害をもつ高齢者の看護	1	30	1	30		
	小児 看護学	小児看護学概論	1	30	1	30		
		治療を受ける子どもと家族の看護 健康レベルに応じた子どもと家族の看護	1	30	1	30		
	母性 看護学	母性看護学概論	1	30	1	30		
		妊娠期・分娩期・新生児期の看護	1	30	1	30		
		産褥期の看護	1	30			1	30
	精神 看護学	精神看護学概論	1	30	1	30		
		こころの治療と看護の理解 こころの健康を支える看護	1	30	1	30		
	看護の統合と 実践	臨床判断	1	30			1	30
		看護マネジメント	1	15			1	15
		国際看護・災害看護	1	15			1	15
		チーム医療と多職種連携	1	15			1	15
		看護研究	1	30			1	30
	計	34	900	22	615	12	285	
	小 計	56	1,410	38	1,035	18	375	
臨地実習	基礎看護学実習 I	1	40	1	40			
	基礎看護学実習 II	2	80	2	80			
	地域・在宅看護論実習	2	80			2	80	
	成人看護学実習	2	80			2	80	
	老年看護学実習	2	80	2	80			
	小児看護学実習	2	80			2	80	
	母性看護学実習	2	80			2	80	
	精神看護学実習	2	80			2	80	
	統合実習	2	80			2	80	
	小 計	17	680	5	200	12	480	
総 合 計	73	2,090	43	1,235	30	855		